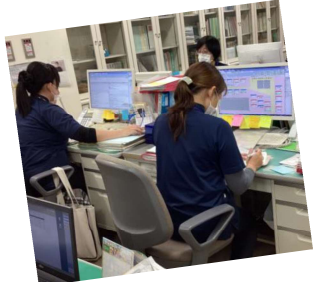


医療支援室の紹介

医療支援室は、看護師長、医療ソーシャルワーカー(MSW)、公認心理師、医事職員で成り立っています。



入院相談は看護師長とMSWがお受けしています。速やかに転院して頂けるように日々調整をしています。MSWは、入院から退院まで入院リハビリテーションに専念していただけるよう、治療の妨げになっている生活上の不安、心配ごと等の問題を一緒に考え、解決の支援をさせていただきます。また退院後の生活へスムーズに移行できるよう様々な制度を活用しながら退院支援を行います。



MSWは1月から6名になりました



病棟でのスタッフカンファレンスの様子
MSWも参加し多職種で「ハビリ」や退院支援の方向性を話し合います。

入院相談は医療支援室までご相談ください。 医療支援室直通TEL:082-849-2801

・・・転院までの流れ・・・

電話相談→診療情報提供書等FAXして頂きます→入院判定会議(平日毎日開催)
→会議後 入院可否やお受入れ日時をご連絡します

広島市立リハビリテーション病院・自立訓練施設へのアクセス



Vol.29

地方独立行政法人
広島市立病院機構
広島市立リハビリテーション病院
広島市立自立訓練施設

広報誌 ころ通信

2024.1月



〒731-3168 広島市安佐南区伴南1丁目39-1
http://soriha-hiroshima.jp/

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院に多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。職員一同、心より御礼申し上げます。

令和5年は、広島G7サミット、侍ジャパンのWBC優勝、車いすテニス国枝さんの国民栄誉賞受賞など、明るいニュースにわいた一年でしたが、夏の史上最高平均気温、トルコ・シリア地震、ハワイ・マウイの大規模山火事、住宅地での連続クマ被害、ガザ地区の攻防など、自然の驚異や人為の恐ろしさを感じた一年でもありました。

医療現場では、令和2年初頭より流行し始めたコロナウイルス感染症が令和5年5月から第5類として扱われるようになりました。この感染症が当初の未知の重症感染症から治療可能な感染症に変化し、社会活動に及ぼす影響も徐々に少なくなっていることを実感しますが、ウイルスの強い感染力に変わりはなく、重症化の危険因子を持つ方々への影響には注意が必要なのも事実です。当院でも入院患者さんへの影響を最小化するために診療制限を行った期間を経験しましたが、一方で制限期間中に患者さんやご家族にかかる負担について考えなくてはならない状況も経験し、令和5年はwithコロナを想定した感染対策を模索し続けた一年となりました。

また令和5年は、当院の母体である地方独立行政法人広島市立病院機構との協同で、最近さかんに目にするが増えたデジタルトランスフォーメーション(DX)の導入に取り組み始めた年でもありました。令和6年には医師の働き方改革・タスクシフト・診療報酬改定など、病院を取り巻く環境も大きく変わります。これからも医療水準を落とすことなく、少しでもスタッフの負担を軽減しながら、来たるべき変化に効率的に対応できるよう、DXなど新しい技術の積極的な活用に取り組んでいきたいと思ます。

ご承知のように、今年辰年です。辰とは竜(龍)のこどですが、十二支では唯一、空想上の生き物です。十二支は、もともとは古代中国で生み出されたもので、中国の多くの王朝において竜は皇帝の権威の象徴であり、崇められてまつられる対象でした。古の人々にとって竜は実在する生き物と同等か、それ以上の存在だったと言えます。他はすべて実在の生き物なのに、なぜ架空の竜が十二支に選ばれたのかというと、はっきりとした理由はわかっていませんが、この辺りに理由があるのかも知れません。

竜に対する皆さんのイメージは、一般的には「荒々しい」「力強い」「勇ましい」「神秘的」といったものかと思われます。「竜頭蛇尾(りゅうとうだび・初めは勢いがあるが、終わりがふるわないこと)のたとえ」や、「竜画点睛を欠く(がりょうてんせい・最後の肝心の部分が抜けているために不完全な状態にあること)」といった竜にまつわる故事成語もたくさんありますが、当院の今年の抱負に重ねて言えば、竜画点睛を欠くことなく、また竜頭蛇尾に終わることもなく行きたいものです。また、上り竜、神竜・・・と、竜には「のぼる」イメージがあります。竜のごとく、持てる力を存分に発揮して、登り飛躍する一年にもしていきたいと思ます。

当院は100床の回復期リハビリテーション病院で、入院のほぼ全例が急性期病院からの紹介です。令和5年の入院症例の約70%が脳神経疾患・約47%が重症例でしたが、紹介元である急性期病院の診療スピードが高速化していることより、今後はこれらの内訳も変化していくことが予測されます。本年も地道に日々の診療を行いつつ、なお一層、診療体制の進化と深化を進めていく所存です。

本年が皆様方にとって、より良い一年になることを職員一同願っております。これからも広島市立リハビリテーション病院を何卒よろしくお願致します。

令和6年1月吉日 病院長 竹下 真一郎

新年のご挨拶



新しいX線TV撮影装置



栄養サポートチーム(NST)が症例検討している風景

当院では、食事が難しくなった患者様に対して、X線透視を用いた飲み込み検査(嚥下造影検査:VF)や内視鏡を用いた飲み込み検査(嚥下内視鏡:VE)を毎日実施することができる体制をとっており、入院時の評価や食事変更のための確認を迅速に行っています。(2022年度の嚥下造影検査数206件程度。)

検査場面では、医師、歯科医師、摂食嚥下認定看護師、病棟看護師、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士などが集まり皆で評価を行っています。また、週1回栄養サポートチーム(NST)が介入し、体重、食事摂取量、摂取カロリーなどの栄養状態、患者様の活動量などの情報共有を行い、多職種で摂食嚥下機能の向上に向けて支援しています。

食事は、自立した生活を送る上でとても大切な要素です。飲み込みの難しい患者には、どのような食事であれば安全に食えることができるか、どのくらいの量を食えば必要なエネルギーを確保できるか等を考えることが重要です。

摂食嚥下機能評価

自立訓練施設

自立訓練施設では、障害者総合支援法に基づき、自立訓練(機能訓練・生活訓練)サービスを提供しています。病気や事故などにより身体に障害のある方や高次脳機能障害のある方を医療機関などから引き継いで、就労・復職といった社会復帰するために必要な支援や、自立した地域生活に向けた動作練習や家事訓練、公共交通機関利用の訓練など、実践的な取り組みを行っています。

バスの乗降体験会を開催しました！

令和5年11月28日、広島電鉄㈱の協力のもと、ノンステップバスの乗降体験会を行いました。西風新都営業所から、運転手のお2人に来ていただき、バスビーや障害者割引のこと、乗降の手順などを教えていただきました。



参加者には杖や車いす利用の方が多く、「まだ無理かな。」「混雑しているときは大変そう。」と不安の声もありましたが、お2人から「できるだけお声がけするようにしている。」「困ったことがあった場合、気兼ねなくお声がけください。」とのお話があり、安心された様子でした。



自立訓練施設のInstagram施設の日常や取り組みも発信しています。ぜひご覧ください！

試乗したバスには、車高を下げるニーリング機能やスロープが装備されており、「よかった。このバスなら利用することができそう。」と明るい表情になられる方もおられました。年に2回開催する体験会は、病気をされた方が、バス利用を再開されるきっかけとなっています。当施設は障害のある方が、地域で「自分らしい生活」を送ることができるよう努めています。



どんぐり拾い 秋晴れの日、ほうりんこころ幼稚園のみなさんが来てくれました



歯科日より

リハビリの相乗効果目的に入院時歯科検診を行っています

しっかり噛める口腔内作りを目指しています。

丸呑みでは栄養は素通りです。色々な食べ物が食べられる口腔内か検診しています。嚥下障害がある方はリハビリがしっかりできるよう口腔内を整えましょう。

噛めれば脳に刺激が加わります。

咬むことによって活性化される部位

- 感覚野 : 歯に加わった圧力がどこからのものか認識する部位
- 運動野 : 筋肉に「動け!」と指令を出す部位
- 海馬 : 記憶の保存
- 線条体 : 人がもつ「やる気」と関係すると考えられている部位



当院では脳血管障害の方が多く入院されています。リハビリの相乗効果として、噛むことから脳への刺激を期待しています。義歯であっても頭への刺激は伝わります。退院時に御希望があれば、かかりつけ歯科へ紹介状をお作りし、入院期間中に加療した部位をお伝えしています。